

2013年国保など経済的事由による 手遅れ死亡事例調査概要報告

2014年5月19日(月)

全日本民主医療機関連合会

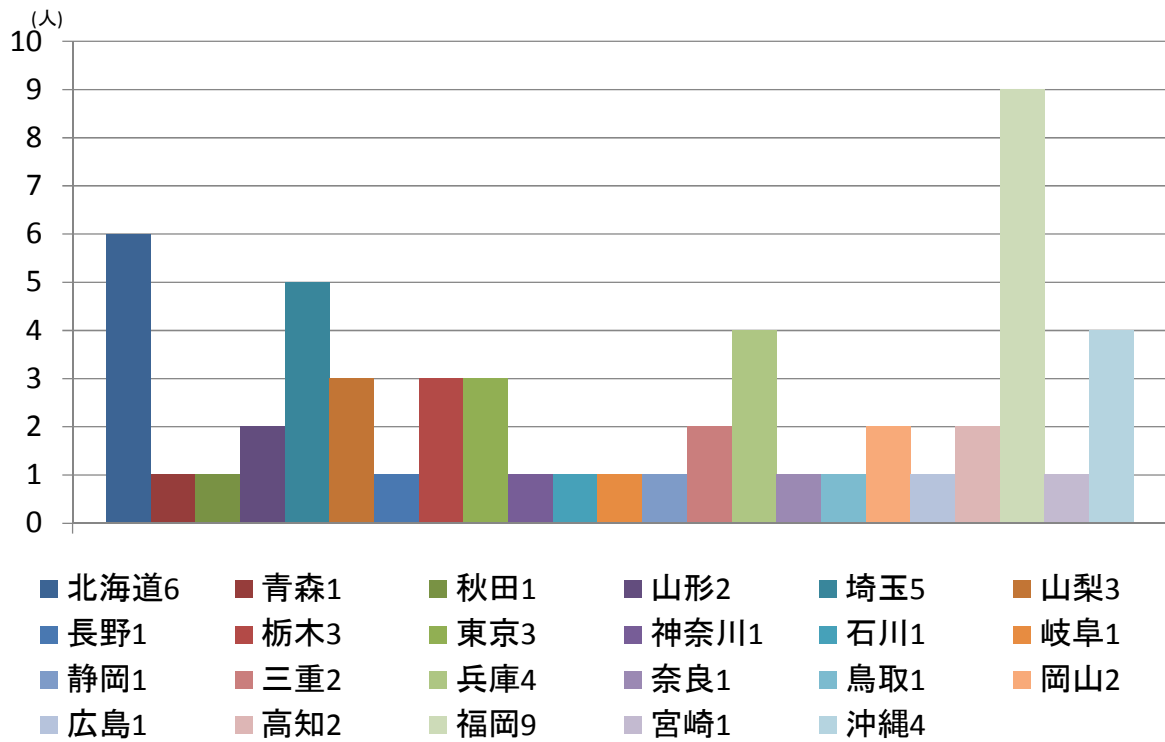
問い合わせ Tel 5842-6451 (代表) 国民運動部 気付

担当 鈴木、山本

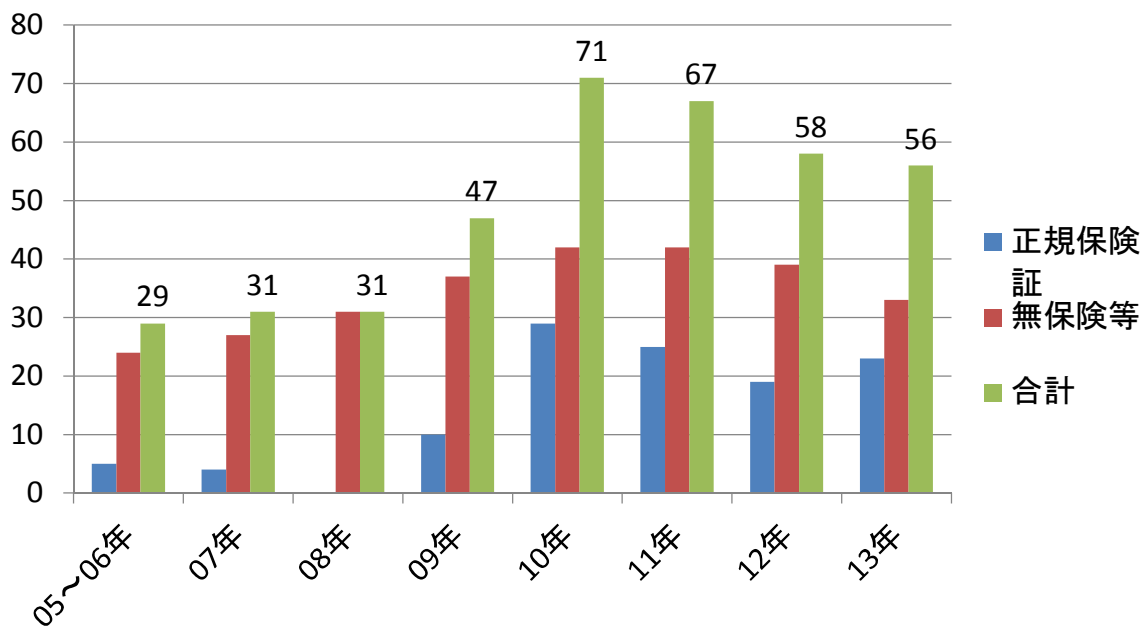
調査概要

- 調査期間: 2013年1月1日～12月31日
- 調査対象: 全日本民医連加盟の病院および診療所の患者、または受診相談した人のうち、医療費支払い困難等の経済的な事由で治療が遅れ、死亡に至った事例。
- 調査方法: 各事業所担当者から調査票提出

都道府県別事例数



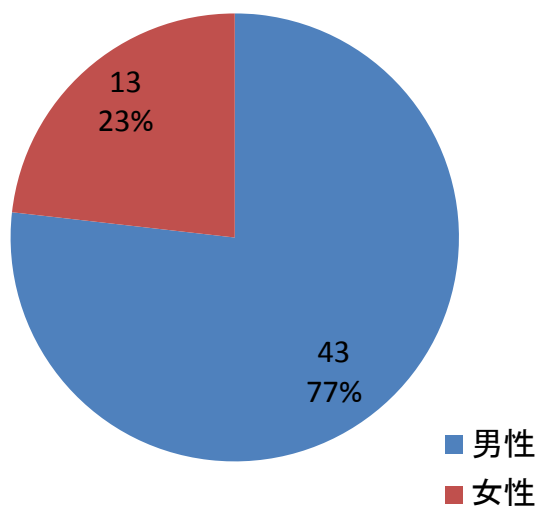
事例数の経年的推移



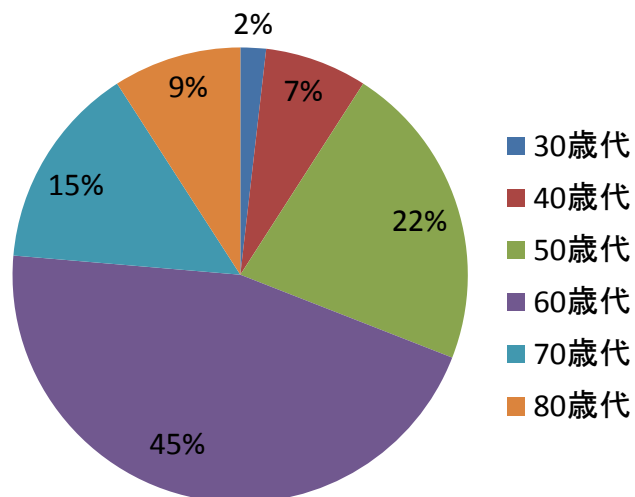
性別・年齢分布

男性77%、70歳未満が78%、65歳未満の稼働年齢が57%を占めた。

性別



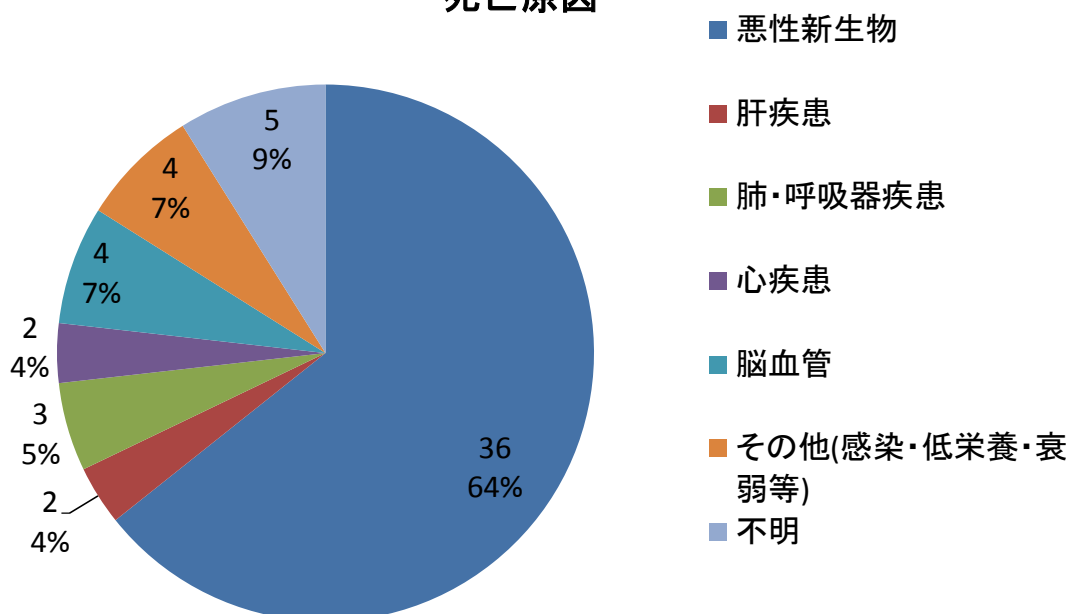
年齢分布



死亡原因

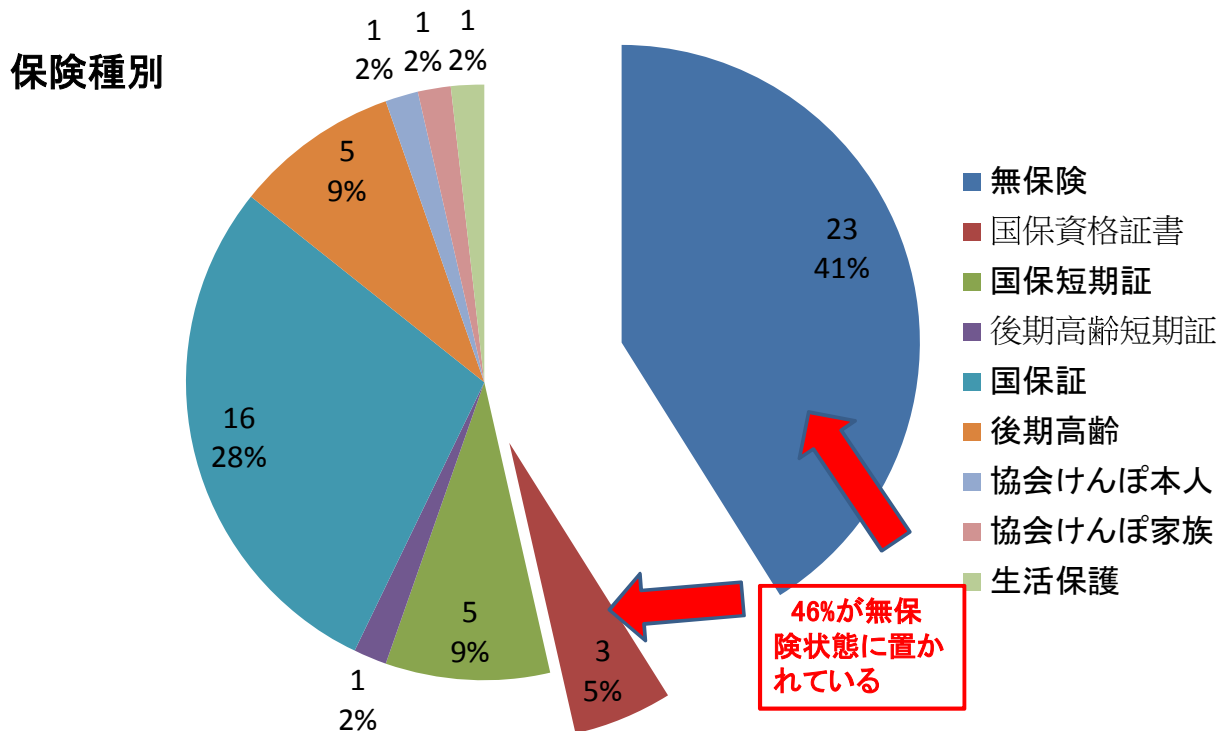
症状があっても受診せず悪性新生物が悪化した死亡が64%

死亡原因



保険種別の特徴

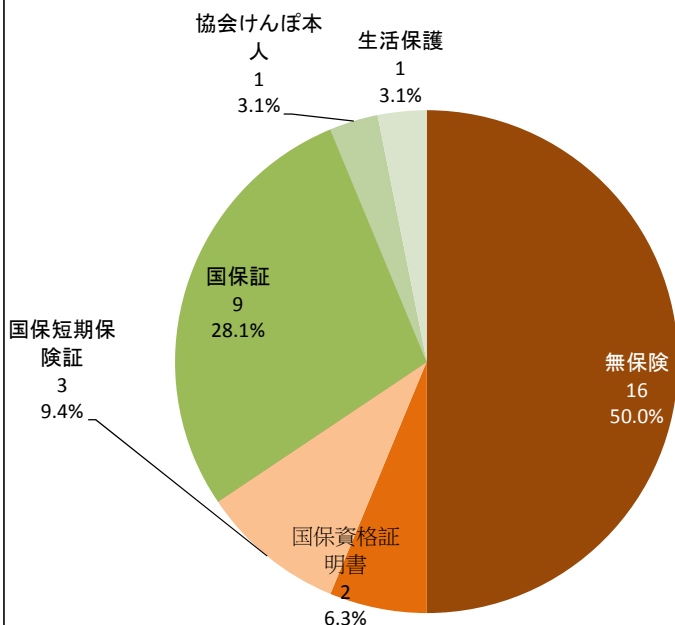
無保険・国保資格書が46%、短期保険証を含むと57%



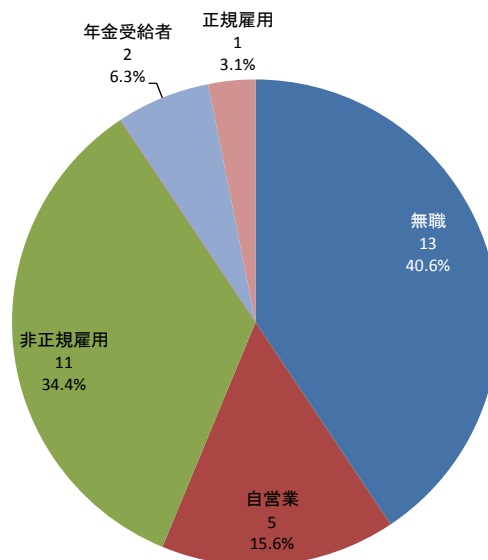
稼働年齢層の保険・職業

無保険状態が56%、無職と非正規が80%

65歳未満事例の保険種別



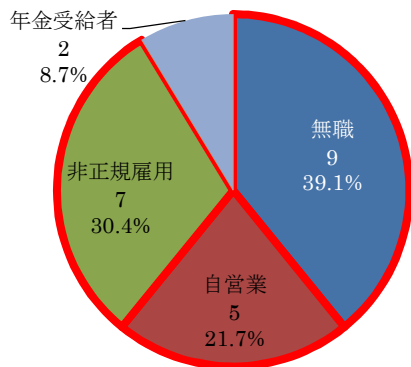
65歳未満事例の職業



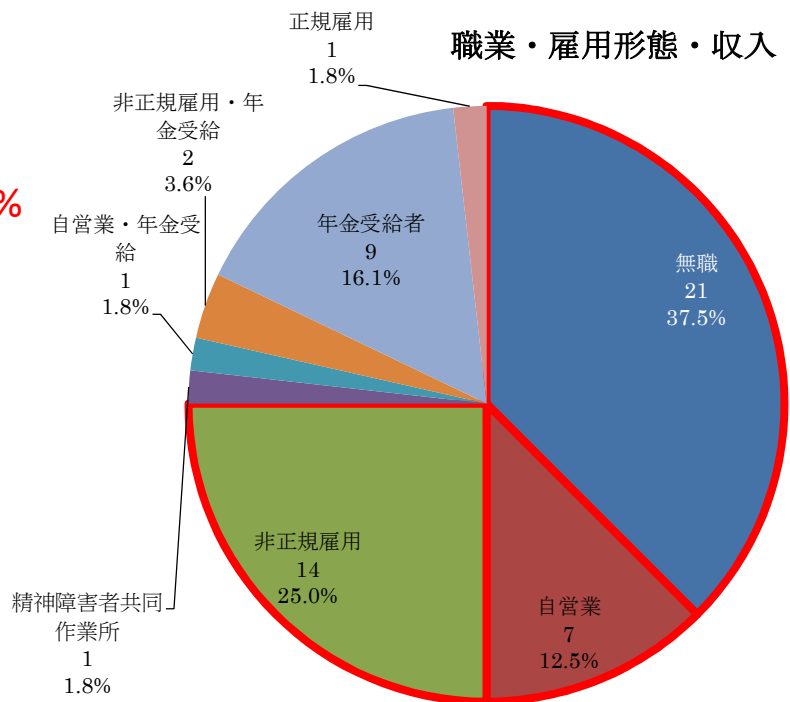
無職または収入が不安定な雇用が75%

無職が全報告事例の4割、無職・自営業・非正規雇用をあわせると全事例の75%、
無保険事例では91.2%が雇用・収入が不安定な状況であった。

無保険事例の職業・雇用形態・収入

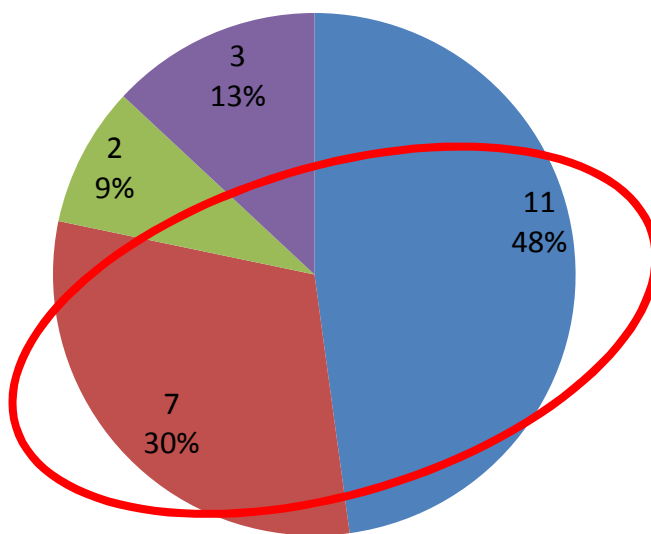


職業・雇用形態・収入



無保険の経緯

78%が高すぎる保険料のため無保険に



- 保険料が高すぎるなどで、退職、失業後に国保等手続きをしなかった。
- 国保料滞納で資格証明書となり、留め置き等のため事実上未交付
- 転居手続等できず国保未交付
- 不明

無保険の経緯・事例

- 59歳 男性 非正規雇用 独居
無保険 下行結腸癌で死亡

長年勤めていた映画館の閉鎖にて失職。国保料は高いと知人より聞かされ未加入。以後、パートを転々とし受診時は食品会社に勤務していた。数年前から会社の健康診断にて貧血を指摘されていたが、保険証がないことと、最初のうちは自覚症状がほとんどなかったため、受診にいたらず、検診で重症貧血を指摘され、心配した検診担当の保健師が本人へ無料低額診療のある病院を紹介し受診、即入院となる。

- 62歳 男性 自営業 独居
無保険 劇症肝炎で死亡

2年前に退職後、無保険状態。兄弟の話によると、居酒屋経営をしていたが商売はうまくいってなかった。体調不良となり、2013年3月26日国保加入の相談に行くが、前健康保険の脱退証明がなければ加入できないと言われ、加入できず。同日に他院受診するも保険証がないため治療継続とならず帰宅。2日後知人が自宅に訪れた際、黄疸がみられ救急車要請。救急隊の勧めがあり、無料低額診療を実施している病院へ搬送された。入院5日後の4月1日に永眠。

生活保護の水際作戦による手遅れ事例

実質身寄り無く、飯場で生活しており、2012年8月ごろより体調不良を訴えていた。その際、生活保護課に相談にいったが、飯場で生活していることを理由に、申請受理はされず。その後働くこともできなくなったため、議員に相談し11月15日に再度生活保護申請に行かれる。同日、生活保護開始。

生活保護課より、「舌がはれあがっており、食事も食べられず、衰弱している。受診をお願いしたい」とのことと紹介あり。当院受診したところ、舌癌と診断される。頸部リンパ節にも転移していた。抗がん剤治療のため、当院とA病院の転院を繰り返していた。

当院は初診。身よりなく、話すことも困難であったため、MSW同行の下、A病院への受診を行っていた。当初、手術を希望されていたが、かなり大部分の切除が必要になると聞き手術は希望されず、その後は緩和的にみていくことになった。在宅で生活する為、入居先を探して決まっていた。退院前日の4月5日に大量出血し逝去。

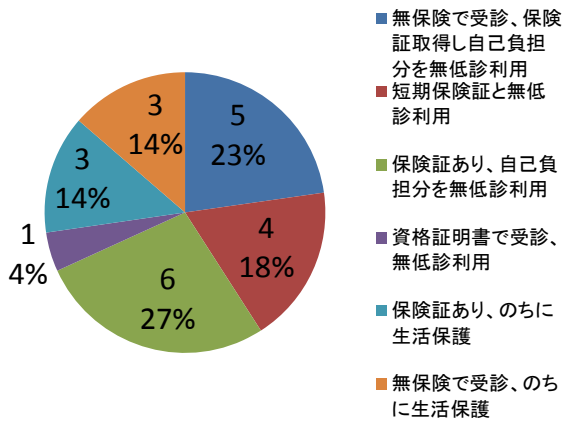
本人は、「8月の時点で生活保護課に相談にいった。しかし、あなたみたいな人を全員は助けられないと返された。あのときにちゃんと治療できていたら、こんな風にならなかつたらどうか。」とMSWにもらされていた。

無料低額診療事業について

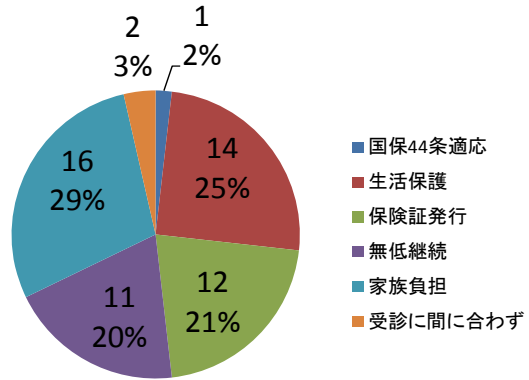
72%が制度を利用して治療開始
いのちを救う制度として機能している

48%が社会資源が利用できた。
権利がないがしろにされている。

医療費負担



最終支払い



無料低額診療事業を知り、相談に来る事例が増加

59歳 男性 非正規雇用 独居 無保険
下行結腸癌で死亡

検診センターでの検診で重症貧血の指摘をされ、心配した検診担当の保健師が本人へ無料低額診療のある当院を紹介し受診、即入院となる。保健師から、「健診結果から貧血の精査を勧めるも、保険証も金もないと拒否された。勤医協が無低を実施していることを何かで見たことがある。」と電話相談があった後、中央病院を受診。

51歳 女性 無職 母親と同居 無保険
卵巣癌で死亡

一人暮らしで仕事をしていたが、統合失調症の陽性症状により、働けなくなり、2008年2月にアパートを引き払い、2ヶ月間姉の家に身をよせた後、2008年4月頃から母(80)の元に身をよせていた。母親が生活保護受給中であり、同居していることを保護課に知られると母親の保護が打ち切られると思い隠れるように暮らしていた。母の元にヘルパーが来る日は外出してヘルパーに同居を知られないようにしていた。その外出先の図書館においてあった「SOSマップ」で当院を知り、相談した。

調査を終えて

事例は、低所得者層を中心に医療へのアクセスが厳しく制限され、「社会的に作り出された早すぎる死」であることを訴えている。

個々の事例は、当事者個人の努力では解決しえない問題を抱えていた。

医療団体として、国と自治体の政策に今回、集まった事例を痛恨の教訓として反映させ、救えた可能性のあるいのちを二度と犠牲にしないよう強く求めていく。

調査を踏まえての提言

医療にアクセスする権利をすべての人に保障する。

実質的な無保険者があふれている。また自己負担の増加による受診抑制も顕著であった。

(1) 高すぎる国民健康保険料を引き下げる。

国保法77条の適応 基準拡大。保険料の引き上げを中止すること。誰もが払える国民健康保険料の実現へ向け、国庫負担を増やすこと。国保料上昇につながる国保都道府県化を中止し、市町村国保への財政援助の充実をはかること。

(2) 窓口負担の軽減

多くの国で無料もしくは低額となっている窓口負担は、無料をめざし、当面、現役2割、65歳以上1割、高校卒業まで無料に。国保法44条を利用しやすい制度に改善、被災地の保険料、窓口負担の支援。

(3) 社会福祉法2条3項にもとづく無料低額診療事業制度の充実

すべての公的医療機関で実施、保険薬局への適用の拡大など

(4) 丁寧な相談活動を実施するに十分な自治体職員の体制確保、民生委員や医療機関からの相談窓口の設置などを国の責任で行うこと。

(5) 生活保護制度の充実

水際作戦を助長する改悪された生活保護制度の7月実施を中止すること。

終わりに

いのちの格差を是正する

人権としての
医療・介護保障
めざす提言



全日本民主医療機関連合会

「いのちの平等」とりもどす
希望の提言！ 5つの実態調査報告も
同時収録

定価 単行本1300円(税別) 全日本出版

いのちの格差を是正する

人権としての 医療・介護シンポジウム

政府は、医療費負担のため、安上りな医療・介護保険制度をつくり、国民への大規模な負担増と不安なサービスを取り戻すよう努めています。
私からは、①「社会保険の解体作業」を中止して、具体的な対策を示すことで、人権としての社会保険制度への向け、国民的合意を呼びかけていきます。

参加費無料

6/21^土 開場13:00
13:30~17:00

東京 都立ノボ
ソラシティ
カンファレンス
センター

2Fソラシティホール
Tel.03-6206-4855

※ 本講演は、本誌「医療」巻頭12頁
※ 講演料は、全日本民主医療機関連合会 事務局に請求ください

シンポジスト

近藤 克則氏 (千葉大学先端医学センター教授・日本福祉大学客員教授)
小栗 崇寛氏 (筑波大学経済学教授)
勝田 登志子氏 (協会の人と事業の責任者)

司会者

藤末 衛 (全日本民主医療機関連合会)



(主催) 全日本民主医療機関連合会 / (協賛) 医療研究開発 / (協賛) 経産省・協同組合研究所以のちとくらし

国保など経済的事由による手遅れ、死亡事例調査
【県連別報告数】

報告事例全体数 *～12年は該当事例数のみ

県連	05-06年	07年	08年	09年	10年	11年	12年	13年	
								総提出数	該当事例数
1 北海道	0	0	5	3	5	5	5	6	6
2 青森	1	0	0	0	2	1	4	1	1
3 岩手	0	0	0	0	1	0	1	1	0
4 宮城	0	0	1	0	2	1	2	0	0
5 秋田	0	0	1	0	4	0	0	1	1
6 山形	0	0	1	0	1	0	0	3	2
7 福島	1	0	0	0	1	0	0	0	0
10 群馬	1	0	4	0	4	3	0	1	0
11 埼玉	3	1	0	3	0	5	5	5	5
15 新潟	1	0	0	0	0	0	0	0	0
19 山梨	2	1	2	1	3	6	3	4	3
20 長野	2	1	3	2	9	5	1	1	1
8 茨城	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 栃木	0	0	0	0	0	0	0	3	3
12 千葉	0	0	0	2	0	0	1	0	0
13 東京	1	1	0	5	3	6	4	4	3
14 神奈川	1	4	3	4	4	3	0	1	1
16 富山	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17 石川	1	0	2	4	3	1	2	1	1
18 福井	0	1	0	0	0	0	1	0	0
21 岐阜	0	0	1	1	0	0	0	1	1
22 静岡	1	1	0	0	0	1	0	1	1
23 愛知	0	2	0	5	1	0	2	0	0
24 三重	0	0	0	0	1	3	1	4	2
25 滋賀	0	0	1	0	0	0	1	0	0
26 京都	0	1	1	2	2	1	0	0	0
27 大阪	1	3	0	1	3	0	1	0	0
28 兵庫	1	0	1	0	6	1	0	4	4
29 奈良	0	0	0	0	0	1	1	1	1
30 和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31 鳥取	0	2	0	1	0	4	1	1	1
32 島根	3	1	0	0	3	0	0	0	0
33 岡山	5	1	0	0	0	2	1	2	2
34 広島	4	2	1	0	2	1	2	2	1
35 山口	0	0	0	0	0	0	0	0	0
36 徳島	0	0	0	0	0	0	1	0	0
37 香川	0	0	0	0	0	0	3	0	0
38 愛媛	0	1	0	0	1	0	0	0	0
39 高知	0	0	0	1	0	2	3	3	2
40 福岡	0	3	2	4	2	11	7	11	9
42 長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
43 熊本	0	2	0	0	0	0	0	2	0
44 大分	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45 宮崎	0	0	0	1	1	1	4	1	1
46 鹿児島	0	0	2	1	0	0	1	1	0
47 沖縄	0	3	0	6	7	3	0	4	4
合計	29	31	31	47	71	67	58	70	56

国保など経済的事由による手遅れ死亡事例調査【県連別報告数】

正規保険証事例を除く数 報告事例中、正規保険証除く事例、正規保険証事例の内訳数

県連	05-06年	07年	08年	09年		10年		11年		12年		13年		
				正規除く	正規	正規除く	正規	正規除く	正規	正規除く	正規	正規除く	正規	
				北海道	0	0	5	3	0	2	3	3	2	5
青森	1	0	0	0	0	1	1	1	0	2	2	1		
岩手	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1			
宮城	0	0	1	0	0	2	0	1	0	2	0			
秋田	0	0	1	0	0	2	2	0	0	0	0	1		
山形	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	
福島	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0			
群馬	1	0	4	0	0	2	2	1	2	0	0			
埼玉	3	1	0	2	1	0	0	4	1	1	4	1	4	
新潟	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
山梨	1	1	2	1	0	2	1	5	1	2	1	1	2	
長野	0	1	3	1	1	4	5	1	4	1	0		1	
茨城	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	
千葉	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0			
東京	0	1	0	1	4	3	0	3	3	2	2	2	1	
神奈川	1	4	3	3	1	3	1	2	1	0	0	1		
富山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
石川	1	0	2	4	0	3	0	0	1	0	2	1		
福井	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
岐阜	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1		
静岡	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
愛知	0	1	0	5	0	0	1	0	0	1	1			
三重	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	0		2	
滋賀	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
京都	0	1	1	2	2	1	0	0	0	0	0			
大阪	1	3	0	1	3	0	1	2	0	1	0			
兵庫	1	0	1	0	0	4	2	1	0	0	0	2	2	
奈良	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1		
和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
鳥取	0	2	0	1	0	4	1	0	1	3	0	1	1	
島根	3	1	0	0	0	1	2	0	0	0	0			
岡山	4	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	
広島	4	2	1	0	0	0	2	0	1	1	1	1		
山口	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
徳島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0			
香川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1			
愛媛	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0			
高知	0	0	0	1	0	0	0	2	0	3	0	2		
福岡	0	3	2	4	2	11	7	11	7	4	6	1	6	3
長崎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
熊本	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
大分	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
宮崎	0	0	0	1	1	1	4	1	0	4	0			1
鹿児島	0	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0			
沖縄	0	3	0	6	7	3	0	4	2	4	3	0	3	1
合計	24	27	31	37	10	42	29	42	25	39	19	32	24	

事例報告県連数 27 事例報告県連数 23